

私費外国人留学生選抜

令和七年度 熊本県立大学文学部

日本語日本文学科 入学試験問題

日本語の読解能力及び日本文学（現代文学・古典文学）の理解度についての試験

― 注意事項 ―

- 1 問題・解答用紙はこの表紙を含めて九枚あります。
- 2 解答はすべて別紙解答用紙に記載すること。
- 3 解答用紙のすべてに受験番号を記載すること。
- 4 試験終了後は、この問題・解答用紙をすべて提出してください。

□ 次の文章を読んで後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(羽生善治『直感力』株式会社PHP研究所、二〇一二年)

問一 本文中の傍線部a～cについて、漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直して書け。

問二 波線部で用いられている表現について、「勝負を投げる」「完膚無きまで」「踏ん張る」とはそれぞれ
どういう意味か答えよ。

問三 本文中の□の語と同じ意味のものを次から一つ選び、符号で答えよ。

ア むしろ イ もっぱら ウ けっして エ おおよそ

問四 二重線部「その違いを理解し、見極めの精度を高めていく」とあるが、筆者は何と何との違いを理解し見極めると述べているか、本文の抜粋ではなく、自身の言葉で説明せよ。

問五 この文章の中で筆者は勝負と決断について書いている。本文の内容や過去の経験と関連付けて、自身の決断力について述べよ。

㊦ 次の文章は『土佐日記』の一節である。よく読んで後の問に答えよ。

* 作者は、土佐国から都へ戻る途中、室津むろつ（現在の高知県室戸市）という場所に滞在している。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注

十八日〓承平五（九三四）年一月十八日。

同じところ〓土佐国室津の港。

泊〓船着き場。港。

男どち〓男性たち。

心やり〓気晴らし。

磯〓岩や石の多い海岸。

鶯〓鳥の名。

船の長〓船を漕ぐ人たちをまとめる人。

翁〓年を取った男性。

人の何かといふ〓人々が色々と評価をする。

歌主〓歌を作った人。

気色〓気分。機嫌。

まねべども〓真似まねをしようとしても。

読み据よゑ〓きちんと読むことができる。

問一 二重傍線部(a)と(d)の語の品詞は何か、それぞれについて適切なものを次から選び、符号で答えよ。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 助動詞 オ 助詞 カ 副詞
キ 接続詞 ク 名詞

問二 傍線部(1)と(6)のうち、助動詞「ず」の活用でないものを一つ選び、数字で答えよ。

問三 太傍線部①と④の助動詞の意味は何か、それぞれについて適切なものを選び、符号で答えよ。

ア 過去 イ 断定 ウ 自発 エ 受身 オ 推量 カ 完了 キ 希望

問四 傍線部X・Yを現代語訳せよ。

問五 波線部Aについて、次の例を参考にして、品詞・活用の種類・活用形を答えよ。

(例) 形容詞・ク活用・未然形

問六 傍線部Bの現代語訳として適切なものを次から選び、符号で答えよ。

ア この歌は、いつもは無口な人が詠んだものである。

イ この歌は、いつもは漢詩を作らない人が詠んだものである。

ウ この歌は、いつもは歌を作らない人が詠んだものである。

エ この歌は、いつもは船に乗らない人が詠んだものである。

オ この歌は、いつもは港に居ない人が詠んだものである。

問七 短歌形式の和歌は、五つの句で構成される。次の例を参考にして、傍線Cの和歌の、句の切れ目

に、斜線を入れて、五句に分割せよ。

(例) 春が来て／桜の花が咲いた

問八 波線部Dについて、皆は、何が理由で、そのような反応をしたのかを説明せよ。

問九 本文の出典である『土佐日記』の読みを平仮名で答えよ。

問十 『土佐日記』は、平安時代の作品である。次の中から、同じ時代の作品を二つ選び、符号で答えよ。

ア 雨月物語 イ 源氏物語 ウ 竹取物語 エ 仁勢物語 オ 平家物語

時代にあっても、文学を志すものは必然に地方から に出て来ざるを得ない状況があつた。

問四 明治二十四（一八九二）年に第五高等学校（現・熊本大学）にやってきた英語教員で、作家として「怪談（KWADAN）」などの作品も残した人物の名を答えよ。

問五 明治く昭和時代に発表された日本の小説作品を一つ挙げて、その題名・作者・あらすじを記せ。

問六 日本の近代文学の特徴はどんな点にあるか。近代以前の時代の文学と比較しつつ自身の考えを述べよ。

以下余白